

Title	掌中東西年表(岩井大慧編, 四海書房發行)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.4 (1931. 12) ,p.141(695)- 141(695)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19311200-0141">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19311200-0141</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 書評

### 掌中東西年表

(岩井大慧編)  
四海書房發行

私の知れる限りに於て、今迄我國に刊行せられた最小輕便なる年表である。縦一〇四ミリ、横七二ミリ、厚さ八ミリ、總紙數二八〇頁、インヂアンペーパーに印刷せられた本書は所謂「ペーパー年表」であつて、かなり小さいポケットにも收めることが出来る。私は最近一ヶ月半の支那滿鮮旅行に之を携帶して、少しも邪魔にならなかつた。

本書は卷首の日本年號索引及び支那年號索引により、表中に配列せられた日本、朝鮮、支那、西洋の四段の中、日本及び支那の年號を自由に檢索し、之を朝鮮及び西洋のそれと比較し得るの仕組である。朝鮮と西洋の部に對しては聊か不満足が感ぜられるけれども、之は本書の使用者にさりてはさして問題とされないのであらう。年號索引に於て、朝鮮を支那の部に編入せられたことは、之を凡例に示すよりも、寧ろ支那の下に朝鮮を併記することによつて明示せられた方がよかつたらう。

本書はもともと某氏の個人的便益に供せんがために編せられたものなので、我等の容喙すべき限ではないが、私の平素主張してゐる所の普遍的紀年としての西曆（之については近く刊行さるべ

き川合教授還曆紀念論文集中の拙稿参照ありたし）中心に今一層留意せられたらば、間接に本邦の修史の發達に利する所が大であつたらうと思はれる。

本書の刊行により、是迄容積上多くの年表に感ぜられてゐた不便が除かれたことは、編者及びその作成依頼者に對し感謝すべきである。（間崎万里）

### 世界史論講

(坂口昂著)  
岩波書店發行

故坂口教授遺稿集の第二。昨年刊行せられた「ルネッサンス史概説」に次ぐものである。本書には、卷末所載の「坂口博士著述目錄」中に掲記せられた論文の約半數を收め、之に「進講録草案」二編が加へられてゐる。本文菊判ベタ組七六四頁。故博士三十年間の努力の結晶である。之に博士生前の二著「概觀世界史潮」と「世界に於ける希臘文明の潮流」を加ふれば、博士の文献の上に遺された業績の殆んど全部を含むことゝならう。

本書の内容は、一進講録草案、二古代國家觀、三近世史論叢、四近世史學の成立、五隨想錄の五項に分類輯録せられてゐるが、その大半は、他の三著と共に、講義若くは講演より生れたものである。以て博士が講演に、文章に長じてゐられたことが分る。隨つて興味ある本書よりして一般讀者の受くる感化は少くないことであらう。

中にも、「近世史學の成立」に收むる諸篇は、青年史學者にさり有益であるが、殊に「古代史研究の發展につきて」の一篇は、教ゆ